

# 平成30年度 学校経営計画書

石川県立金沢泉丘高等学校（全日制課程）

学校長 宮 崎 栄 治

## 1 教育目標

心身一如の発達につとめて

真理を求め、勉学を第一義とすること

情操を豊かにし、自らの品位を高め、他者の人格を重んずること

正義を愛し、誠実にして、社会から信頼されること

## 2 中・長期的目標

### (1) 学校の現状

- ① 本校は、創設以来「心身一如」を校是とし、調和のとれた人材育成に取り組んでいる。「確かな学力」を身につけさせるとともに、次世代を担う心身共に健全で品位と良識あふれるリーダーの育成をめざし、保護者や県民から信頼される学校づくりを進めている。
- ② 大学進学に関して、県内有数の進学校としての実績を収めている。世界を視野に高い志を掲げて学習させるとともに、第一志望を実現させることをめざしている。
- ③ 平成15年度にSSHの研究開発の指定を受け、さらに平成28年度に四期目（5年間）の指定を引き続き受け、国際的に活躍できる科学技術系人材の育成をめざしている。
- ④ 平成27年度にSGHの指定を受け、グローバルな社会課題に関し、探究型学習を通して多面的に考え、多角的に行動する力を備えた、国際舞台上で活躍する人材の育成をめざしている。
- ⑤ 平成24年度に「いしかわニュースーパーハイスクール」の指定を受け、人文科学、自然科学の両分野における幅広い教養を身につけ総合力を備えた、国際性に優れた次世代を担うリーダーの育成をめざしている。

### (2) 生徒に関する中・長期的目標

- ① 「確かな学力」の育成  
進学実績の向上をめざし、確かな知識に基づいた深い学びにつながる質の高い教科指導を、ICTの活用や主体的・協働的な学習方法を取り入れながら、組織的に展開する。
- ② 豊かな心の育成  
「心身一如」の具現化に向けた有意義な体験が展開されるよう、部活動・学校行事・社会奉仕活動等の教育環境・設備を整え、次世代を担うリーダーに必要な人格の陶冶をめざす。

### (3) 教職員・学校組織等の望ましい在り方

- ① 指導力の向上と組織の活性化  
より効果的な教育活動を展開するために、研究授業や職員研修会をとおして教職員の指導力を高める。また、組織運営の合理化・効率化を推し進めることにより、教職員がワーク・ライフ・バランスを維持し、活力と創造力を十分に発揮することのできる職場環境を形成する。
- ② 開かれた学校づくり  
本校の方針や特色ある取り組みを、積極的に県民に伝え、広く協力・支援が得られる学校とする。また、PTAや地域社会とも連携することによって、本校の教育活動が有機的に展開することをめざす。

## 3 今年度の重点目標

創立125年目を迎える歴史と伝統を踏まえ、建学精神に基づいた教育活動の実践に努める。

- (1) 「勉学を第一義とする」をふまえ、質の高い学力を育成する。  
・ 一時間一時間の授業を重視する。指導法の研究・改善に努める。生徒の高い進路志望の実現を図る。
- (2) 「品位を高め、他者の人格を重んずること」をふまえ、よりよき集団づくりをめざし、絶えず自己研鑽に努める生徒を育てる。  
・ 挨拶の励行、体力の向上、環境美化、部活動・生徒会活動の活性化に努める。
- (3) 「正義を愛し、社会から信頼されること」をふまえ、生徒とともに開かれた学校づくりに努める。  
・ 保護者懇談会、授業公開の機会の拡大を図る。地域社会と連携したボランティア活動を推進する。
- (4) 組織運営・教職員の働き方の改善により、教育活動の効果を一層高める。  
・ 効率的な学習活動、部活動・生徒会活動の推進に努める。

平成30年度 学校経営計画に対する最終評価報告

重点目標1

石川県立金沢泉丘高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）および後期の扱い（改善策）
1 「勉学を第一義とする」をふまえ、質の高い学力を育成する。  ・一時間一時間の授業を重視する。指導法の研究・改善に努める。生徒の高い進路志望の実現を図る。	① 各教科での研究授業や自教科・他教科の授業見学などを通して、また生徒による授業評価なども参考にしながら、授業の質的な向上を図り、授業改善に取り組む。	教務課	【満足度指標】 生徒の授業に対する満足度が高まる。	「授業が充実しているか」の質問に対して、以下の①から④と答えた生徒の割合を算出し、順に4、3、2、1を乗じて、その値 $\alpha$ を算出する。 ①「よくあてはまる」 ②「ややあてはまる」 ③「あまりあてはまらない」 ④「まったくあてはまらない」 $\alpha$ の値が A 3.50以上 B 3.45以上 C 3.40以上 D 3.40未満 ※ 4段階評価の基準 ・よくあてはまる …4点 ・ややあてはまる …3点 ・あまりあてはまらない …2点 ・全くあてはまらない …1点	[判定] A 12月実施の生徒による授業評価3.56	・満足度指標は昨年度同期の3.52や7月の3.53よりさらに上がり、目標の3.50を超えており、この4年では3.43から少しずつ数値が上がっている。各教科の検討結果も踏まえ、数値に現れない部分でも授業の質を向上できるよう改善に努めたい。 ・教員同士の授業参観について、今年度より3人1組で行う相互参観のスタイルを取り入れた。年間参観数は昨年度教員一人平均2.4回から4.7回に増えた。相互参観2回分がそのまま増加分となっており、他教科の授業を見る機会も増えている。 ・生徒による記述式のアンケートによれば、多くの教科でアクティブラーニングやICT機材の効果的な活用が実施されており、生徒の評価も高い。一方教員は、その実施方法やタイミング、提示内容などに関して試行錯誤を続けている。アンケートや授業参観を参考に、さらに授業改善、指導力向上につなげていきたい。
	② 基礎学力の充実を図りながら、適切な模試や大学入試の分析の提供、学部別の説明会等を実施するとともに、難関大学を志望する生徒の意欲をさらに高める取り組みを、他室と連携しながら実施する。 特に、3年生にはきめの細かい指導ができるよう、入試情報や模擬試験のデータ処理・分析等を工夫する。また、集団として受験に臨む意識を高める取り組みを行う。また、2年生には、基礎学力の充実に加えて、より高いレベルの大学を目標とする集団となるよう、SSH室SGH室等と連携した取り組みを工夫して行う。	進路指導課	【成果指標】 受験集団としての意識が高まり、東京大学・京都大学・国公立大学医学科の合格者が増加する。	東京大学・京都大学および国公立大学医学科合格者の合計人数(重複可)が、 A 40人以上 B 30人以上 C 20人以上 D 20人未満	[判定] C 東京大学9人 京都大学7人 医学科5人 合計21人	・6月、10月に東大・京大・医学科説明会を行い、さらに難関大別模試(実戦、オープン模試等)を夏と秋に受験させることにより、難関大学志望者の集団作りと意識付けを行うとともに、学力向上を図った。 ・1、2月に東大・京大出願者に対して本番実戦テスト(東進・河合塾・駿台)を受験させ、学力向上を図った。 ・東大受験者は24人、京大受験者は21人、医学科受験者23人だが、東大、京大は倍率通りの合格率であるのに対して、医学科の合格率が低い。浪人を見据えて受験する生徒もおり、現役合格率が低くなる傾向がある。ちなみに浪人生の医学科は20人受験して12人の合格であった。 ・東大、京大にそれぞれ30人が以上を受験し、合格者数がそれぞれ2桁となるよう、指導の改善を進めていきたい。

重点目標	具体的取組	担当	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）および後期の扱い（改善策）
	③ SSH主対象である理数科と普通科普通コース理型の生徒に対して、カリキュラムの中の科学的な課題研究活動を充実させることで、彼らの科学に対する興味・関心を高め、将来の進路志望をより明確にするとともに、進路指導課、SGH推進室、各学年等との適切な組織的連携を図る。	SSH推進室	【成果指標】SSHの取り組みで科学に対する興味・関心、進路に対する意識が高まる。	「『AⅠ課題研究Ⅰ』（1年）『AⅠ課題研究Ⅱ』『SS課題研究Ⅰ』（2年）『AⅠ課題研究Ⅲ』『SS課題研究Ⅱ』（3年）は、科学への興味・関心や進路に対する意識を高める機会になっている」の項目で、「よくあてはまる」「あてはまる」と回答するSSH主対象生徒の割合が、 A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	[判定] A 1年 95% 2年 77% 3年 65% 全体 74%	・対象生徒は、理数科1年、普通科2年普通コース理型、理数科2年、普通科3年普通コース理型、理数科3年となる。今年度はSSH指定第4期3年目を迎え、現3年生が第4期の1期生である。今年度新たに実施した3年生での「SS課題研究Ⅱ」や「AⅠ課題研究Ⅲ」については、手探りで進めていく部分があったが、対象生徒の半数以上が「科学への興味・関心や進路に対する意識を高める機会となった」と回答する結果となった。これらの科目が、生徒の科学に対する興味・関心や進路意識を一層高める取り組みとなるように、今後内容の改善および2年から3年にかけて系統性をもった進捗計画を立てていく必要がある。
	④ SGHのカリキュラムの改善をはかるだけではなく、教職員全体で教育改革に意欲的に取り組む気運を醸成するよう各部署と連携しながら事業を展開する。 また、課題研究を中心とした探究型学習の指導法を確立することで、生徒を主体的・能動的な学びに導く様々なしなかけやプログラムの開発・研究を進め、学校全体に教育効果を波及させる。	SGH推進室	【満足度指標】SGHの取り組みで思考力や表現力、他人と協働する態度が育成できる。	「SG探究基礎」（1年）や「SG探究」「NS探究α」（2年）「SG探究活用」「NS探究β」（3年）は、思考力・分析力、表現力を高める機会となっている項目で、「よくあてはまる」「あてはまる」と回答する生徒の割合が、 A 95%以上 B 90%以上 C 85%以上 D 80%未満	[判定] B 1年 93% 2年 93% 3年 88% 全体 92%	・SGH指定4年目を迎え、1年次から3年次までのプログラムは完成しており、その改善に努めている。中でも、1年次と2年次の課題研究に連続性を持たせることを目的として、プログラムの改変を進めている。また、課題研究のテキスト作りも段階的に進めており、今年度末には完成予定である。課題研究の質についても、昨年度に比べレベルアップしていることが感じられるが、これまでの積み重ねが学校内に蓄積され、継承発展していることが要因であると考えられる。 ・本校における教育改革に向けて、プロジェクトチームを編成し研究・検討を進められており、今年度からは職員会議後にその報告を行うなど教職員全体が情報を共有し、改革に向かう意識を高める機会となっている。 ・12月のアンケート調査では、生徒にとって探究型学習が、その能力を高める機会となっていることが示されている。（昨年度より達成度の判断基準を厳しく設定したため、判定はAからBとなった）
	⑤ ホーム担任は担当生徒に対し、年間6回以上の個別面接指導を実施する。また、学習時間調査を適宜行い、家庭学習の定着を図る。	1学年	【満足度指標】個人面接指導により、生徒の学習姿勢や学力が向上する。	一年間の学年団の指導が、自分の学力や学習姿勢の向上に役立ったと考える生徒の割合が、 A 95%以上 B 90%以上 C 85%以上 D 85%未満	[判定] B	・12月の「生徒による授業評価」では、項目①「充実度」が3.53であり、評価はBである。 ・ホーム担任との面接指導や学習時間調査などを実施することで、生徒の充実度はアップしてきている。
	⑥ ホーム担任は、校外模試等における具体的な目標得点を設定した上で受験するよう、年間5回以上の個別面接指導を実施する。また、学習時間調査を適宜行い家庭学習の定着を図る。	2学年	【満足度指標】個人面接指導により、生徒の学習姿勢や学力が向上する。	一年間の学年団の指導が、自分の学力や学習姿勢の向上に役立ったと考える生徒の割合が、 A 95%以上 B 90%以上 C 85%以上 D 85%未満	[判定] B	・12月の「生徒による授業評価」では、項目①「充実度」が3.58であり、評価はBとなる。 ・修学旅行後と2月初旬に、家庭学習時間調査を行った。担任は面談を通じ、個々の生徒の状況に応じた指導を行っている。 ・生徒の意識を刺激すべく、秋から冬にかけて上位層に向けて東大・京大・難関大・医学科説明会を行い高い志を維持している。
	⑦ 授業内容をより充実させるとともに、放課後補習および個人添削等を通して、生徒一人一人の志望や学力にあわせた指導を展開していく。	3学年	【成果指標】個に応じた指導により、第一志望の大学への進学が実現する。	難関10大学及び国公立大学医学部医学科の合格者数が、 A 100名以上 B 90名以上 C 80名以上 D 80名未満	[判定] D 77名	・学年と教科、進路指導課が連携しながら、生徒一人一人の志望や学力にあわせた指導を展開した。授業、放課後補習、個人添削等を、分量、レベル、頻度等の面から工夫して行っている。また、タイミングをかりながら個人面談や学年集会を実施し、モチベーションの向上やメンタル面へのサポートを行った。 ・センターから二次試験までの期間が例年より短い中、東京大、後期難関大では健闘を見せたが、難関全体では、80名に及ばなかった。
学校関係者評価委員会の評価	・生徒による授業評価の結果も高く、学力向上の様々な取り組みが効果をあげている一方、土曜補習の在り方については生徒の自主性を育成するためにも見直しが必要である。 ・SSH・SGHを中心にアクティブラーニングの手法を用いて課題研究活動を展開しているが、深い学びにつながる読解力や表現力の育成も進めてもらいたい。					
学校関係者評価委員会の評価結果をふまえた今後の改善策	・授業の充実度については年々改善されてきているが、主体的・能動的に学ぶ姿勢を育成していきたい。土曜補習は、内容、回数、教科バランスなどの見直しを進めていく。 ・授業、生徒全員が行う課題研究活動、補習、添削などの指導をとおして、読解力や表現力の確実な向上を図っていく。					

## 重点目標2

石川県立金沢泉丘高等学校

重点目標	具体的取組	担当	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）および後期の扱い（改善策）
2 「品位を高め、他者の人格を重んずること」をふまえ、よりよき集団づくりをめざし、絶えず自己研鑽に努める生徒を育てる。  ・挨拶の励行、体力の向上、環境美化、部活動・生徒会活動の活性化に努める。	① 各種の講演会を生徒の発達段階に応じて適正に開催し、品位を高め心豊かで、グローバル人材となる資質を育成する。	総務課	【満足度指標】 講演会を積極的に評価している生徒の割合が大きい。	「講演会が知識や経験を学び、生き方を考える良い機会となっている」の項目で、「よくあてはまる」「ややあてはまる」の割合が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	[判定] A 92%	・12月のアンケート調査では、92%の生徒が満足しているという結果が出ており、ここ5年以上80%を超える高い評価となっている。全学年対象の「生き方講演会」と1年生対象の「人権教育・国際理解講演会」について、来年度も充実した内容を企画したい。
	② 基本的な生活習慣の確立を図ることを目的に、挨拶の指導を徹底する。 ・場面に応じた、元気で明るくさわやかな挨拶 ・授業の開始、終了の挨拶 ・職員室等の入室マナー	生徒指導課	【成果指標】 しっかりと挨拶が出来る生徒が多くなる。	場面に応じた元気で明るくさわやかな挨拶ができていると答えた生徒が、 A 95%以上 B 85%以上 C 75%以上 D 75%未満	[判定] B 90%	・今年度は、昨年度の達成判断基準より5ポイント上げたことにより、「B判定」となったが、概ね良好であると評価する。 ・挨拶は、人と人とをつなぐ大切なことであること、他者をリスペクトし良好なコミュニケーションを図ることなどを、徹底して指導してきた。生徒の変化は大きく、かなり良好になってきているが、継続的に取り組んでいくべき課題でもある。
	③ 「いじめを絶対に許さない」学校づくりを推進するために未然防止の取り組みを行う。	生徒指導課	【成果指標】 互いに認め合い助け合う仲間づくりができる生徒が多くなる。	他人の人格を重んじ、尊重する態度で接していると答えた生徒が、 A 98%以上 B 95%以上 C 90%以上 D 90%未満	[判定] B 96%	・今年度も挨拶指導をととして、他者をリスペクトし良好なコミュニケーションを図る方法について啓発してきた。 ・他者の言動を傾聴し、それを承認する態度を育む指導を継続し、いじめのない集団（学校）を作っていく。
	④ 部活動等の活性化及び競技力の向上を図る。 部活動と勉学の両立（文武両道・文武不岐）をめざす。	生徒指導課	【成果指標】 生徒主体の活発な部活動により、上位大会に進出する部が増える。	県予選を突破し、ブロック大会以上の大会・行事等に出場した部活動が、 A 20以上 B 15以上 C 12以上 D 12未満	[判定] B 4月～1月で17の部活動が会場	・運動部、文化部ともに活発に活動を続け、県総体・総文、北信越大会、全国大会（インターハイなど）においても優れた成績を収めた。 ・昨年度より達成度判断基準を上げたため、「B判定」となっているが、例年通りの成績を残している。
	⑤ 環境ISO活動を意識して、環境保全に配慮した生活となるようにする。 ・ゴミの分別 ・学校周辺のゴミ拾い ・節水・節電	保健環境課	【満足度指標】 環境保全を意識して生活し、実践している。	校内の環境保全活動に努めていると回答した生徒の割合が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	[判定] A 94%	・探究的な授業で環境保全をテーマとする学習もあり、高い意識を持つ生徒が増えてきている。環境保全活動は概ね良好であるが、試験期間等で忙しい時に甘くなることが惜まれる。自治活動としての恒常的な取り組みが課題である。
	⑥ 学習環境の整備に努め、魅力ある図書館をめざす。 図書委員会活動、図書館便りの充実、購入図書の見直しに努め、入館者数や貸出し冊数の増加を図りたい。	図書課	【成果指標】 図書館の利便性が高まり、図書の貸出し数が増えている。	1年間の図書の貸し出し冊数が、 A 4,500冊以上 B 4,000冊以上 C 3,500冊以上 D 3,500冊未満	[判定] C 3,766冊の貸し出しで、昨年より15%増	・図書貸し出し数は、3,766冊で、昨年より542冊増加した。その内訳は、1年生が2,072冊、2年生が1,093冊、3年生が601冊で、学年を経るにしたがって貸出数は減少している。貸し出し冊数が増加した要因として、長期休業中の貸し出し冊数を無制限にして貸出期間も延長したこと、授業での図書館の積極的利用を促したこと、サイネージを活用しての広報活動に努めたことなどが、増加の大きな要因と考えられる。 ・年間入館者数は、昨年より4,729名増の20,626名であった。今後とも、読書や学習の場として生徒が利用しやすい、魅力ある図書館づくりに取り組んでいきたい。

重点目標	具体的取組	主担当	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）および後期の扱い（改善策）
	⑦ 悩みや問題を抱える生徒の早期発見に努め、教職員間の連携を密にしながら、生徒一人一人が希望を持って学校生活を送ることができるように支援する。	教育相談室	【満足度指標】 気軽に相談室を利用することで、精神の安定が保たれるようにする。	相談室を利用した生徒による学校評価アンケートの「気軽に相談でき利用しやすい」の項目で、「よくあてはまる」「ややあてはまる」の割合が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	[判定] A 90%で昨年より2%減	・相談室を利用した生徒が全校生徒中165名であった。昨年の199名より減少した。（この数字には、教科の質問や課題の提出、部活や掃除で相談室を訪れた生徒も含まれている。） ・多くの生徒が日常的に気軽に相談室を利用していただければ、問題を抱えた際、相談室を利用することで、深刻な事態に陥ることを防ぐことができるので、今後も気軽に利用できる環境づくりに努めていきたい。
学校関係者評価委員会の評価		・挨拶の習慣の定着など、基本的な生活習慣の改善がみられるのは大変望ましいことであり。今後も指導を継続してもらいたい。 ・学校行事などとおして、生徒の生きる力を養っていただきたい。				
学校関係者評価委員会の評価結果をふまえた今後の改善策		・基本的な生活習慣の一層の定着を図るとともに、他人の人格を尊重する態度の育成を進めていく。 ・創立記念祭などの学校行事や、課題研究・発表、部活動など、他者と関わりながら行っていく教育活動などとおして、社会性や生きる力を養っていく。				

### 重点目標3・4

石川県立金沢泉丘高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）および後期の扱い（改善策）
3 「正義を愛し、社会から信頼されること」をふまえ、生徒とともに開かれた学校づくりに努める。	① 保護者懇談会、PTA活動、いしかわ教育ウィークなどを通して積極的に学校を公開し、保護者や地域住民との連携を強くし、開かれた学校づくりをめざす。	総務課	【成果指標】 本校の教育に対する保護者等の関心が高まり、学校公開への参加者が増える。	今年度の「PTA総会」、「いしかわ教育ウィーク」・「生き方講演会」の保護者・地域住民の来校数が合わせて、 A 1,200人以上 B 1,000人以上 C 800人以上 D 800人未満	[判定] B 来校者数の合計が1,023名（昨年947名）	・「PTA総会」は出席者数が783名（家族含むと845名）、出席率は65.5%である。「生き方講演会」には72名の保護者、「いしかわ教育ウィーク」では168名の来校者であった。保護者や地域の本校への期待や関心は高い。 ・保護者アンケートで「開かれた学校づくりへの学校の取り組み」に関して、昨年とほぼ同様の96%で高い評価が出ており、維持できるよう努めていきたい。
・保護者懇談会、授業公開の機会の拡大を図る。地域社会と連携したボランティア活動を推進する。	② 特別講義を一般公開することや、理数科1,2年生、SSH部、科学系の部所属の生徒が「創立記念祭における理科教室」、「高校生による青少年のための科学の祭典」、小・中学生を対象とした理科教室を企画・運営・参加することを通して、科学教育の面から地域に貢献する。	SSH推進室	【満足度指標】 SSHの取り組みを地域に還元できる。	「理科教室やサイエンスグランプリに参加して、どう思いますか」という質問に対して「大変良かった」と回答する理科教室等の参加者の割合が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	[判定] C 72.2%	・理科教室については、今年度も昨年度同様、木曜日、金曜日の平日開催であったが、初日478名、2日目553名計1,031名の来場があり、昨年度の600名を大幅に上回った。今年度は、ツイッターやLINEのタイムラインに広告ポスターと実験動画を載せるなど、SNSを利用した広報活動に積極的に取り組んだことが来場者数増の一因と考えられる。 ・理科教室は例年どおり、企画・準備・運営を全て生徒が行った。外部参加者からの評価も、来場者のほぼ全員が、高校生が指導する取り組みを「良いと思う」と回答しており、生徒の主体性、コミュニケーション能力の向上につながっている。また、2月に金沢子ども科学財団と共催で行った金沢泉丘サイエンスグランプリも、企画・準備・運営を全てSSH委員が実行委員となり実施した。生徒の主体性を育む取り組みとして来年度も継続したい。今年度は達成度の判断基準を「大変良かった」と回答したものに限定したため、評価はCとなった。「良かった」も合わせると100%となる。

重点目標	具体的取組	担当	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）および後期の扱い（改善策）	
	③ 校内ネットワーク・ICT機器の利用環境の保守・整備に努め、校務の効率化と教育活動への活用を支援するとともに、情報資産管理システムの適正な運用を図る。	情報管理室	【努力指標】 生徒・教職員のコンピュータ・ネットワーク利用環境が整備され、効率的利用が高まる。	教員に対するアンケートにおいて、「校内 LAN の整備やコンピュータ・視聴覚機器の利用環境の整備によって校務の効率化と教育活動の質の向上が図られている。」という項目のよくあてはまるとややあてはまるを合わせた割合が、 A 90%以上 B 70%以上 C 50%以上 D 50%未満	[判定] A 91%	・SAMシステム運用により各種台帳が整備され、棚卸によるハードウェア、ライセンス媒体の確認作業も終了した。 ・コンピュータの更新に伴う各種台帳への登録、ソフトウェアの導入、iPadの導入も滞りなく完了した。 ・引き続きコンピュータ・ネットワーク利用環境の整備に努め、教職員の教育活動への支援を進めたい。	
	④ 「学年だより」、「進路だより」等を通じて、保護者に学校の様子を理解していただく機会を増やし、保護者の学校行事への参加拡大につなげていく。	1学年 2学年 3学年	【満足度指標】 学校からのたより・通信等は学校の様子についてわかりやすく伝えていくとする保護者の割合が高い。	「学校からのたよりによって、学校の様子がわかる」と回答した保護者が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	1年B 86.5% 2年C 78.1% 3年C 78.8%	[1年] ・1年終了までに「学年だより」6回、「進路だより」10回発行した。学校行事の様子や生徒に必要な情報を提供した。生徒・保護者に有益な情報を伝えることに努めてきた結果、「たよりによって学校の様子がわかる」とした保護者は86.5%であった。 [2年] ・2年終了までに「学年だより」6回、「進路だより」11回発行した。学校行事の様子や生徒に必要な情報を提供した。生徒・保護者に有益な情報を伝えることに努めてきた結果、「たよりによって学校の様子がわかる」とした保護者は78.1%であった。 [3年] ・3年終了までに「学年だより」8回、「進路便り」9回を発行した。学校行事、生徒の様子、受験情報など提供した。生徒・保護者に有益な情報を伝えることに努めてきた結果、「たよりによって学校の様子がわかる」とした保護者は78.8%であった。	
4	組織運営・教職員の働き方の改善により、教育活動の効果を一層高める。 ・効率的な学習活動、部活動・生徒会活動の推進に努める。	① 業務の見直し、組織運営の効率化、職場環境の改善、教職員の意識改革、時間管理の工夫等を進めることにより、教職員のワーク・ライフ・バランスをとり、教育活動の質の向上を図る。	管理職	【満足度指標】 気力、知力、体力の面から、一層効果的な教育活動を展開できていると感じている教員の割合が高い。	ワーク・ライフ・バランスをとることにより、気力、知力、体力が充実し、一層効果的な教育活動を展開できていると回答する教員の割合が、 A 80%以上 B 60%以上 C 40%以上 D 40%未満	[判定] A 41.8%がよくあてはまる、 52.8%があてはまると回答	・職員の勤務時間調査の実施や、月一度の定時退校日、部活動休養日、夏季休業中の学校閉庁日の設定などとおして、限られた時間の中での業務効率の改善や、ワーク・ライフ・バランスをとることへの意識の向上を図ることができた。来年度も引き続き、組織運営・教職員の働き方の改善を進めていきたい。
学校関係者評価委員会の評価		・教員の働き方改革を進めるうえで、定時退校日、部活動休養日、夏季休業中の学校閉庁日の設定など、形から入ることは有効である。 ・一方、教員が土曜日に出勤し補習を行うことには、働き方改革という面からも検討が必要ではないか。					
学校関係者評価委員会の評価結果をふまえた今後の改善策		・働き方改革の成果が少しずつ表れているので、次年度は教職員の意識改革と業務改善を一層進めていく。 ・補習は生徒の学力向上の一端を担っているが、その内容、回数、教科バランスなどについて教員の働き方改革という面からも改善していく。					